

令和6年度札幌地区バスケットボール協会 役員を代表として一言 ごあいさつ申し上げます。

本来ならば、細川正人 会長 並びに 大友理事長が ご挨拶すべきところですが、あいにく、本日 他の会合と所業があり、誠に申し訳ございませんが、代理で、副会長の私 斉藤拓也がお話させていただきます。

過日の札幌地区バスケットボール協会、評議委員会で令和6年度の活動計画案が承認され、各カテゴリー別の「総会」等で事業計画についての説明・連絡が行われています。本日は、U12 部会内でそれらの情報の共有を図り、円滑な行動連携と大会運営のための一助になればと考えております。

さて、U12 部門は、崇高な理想である<友情・ほほえみ・フェアプレー>の「ミニバスケットボールの精神」を掲げている唯一のカテゴリーです。その実現には、ミニバスにかかわる大人の責任と自覚が重要であることを年度初めのこの場で、今一度確認していきたいと思っております。

目指す目的/頂(目的の的はまと・ターゲット)は一つ。友情 ほほえみ フェアプレーの具現化です。

この目的は 全チームで共有すべきことです。

一方、そのためには、各チーム・少年団・保護者会・後援会等の現状や実態に即した 様々な目標(道しるべ)として各種関係団体等からのガイドラインが示されており、しかも日々アップデートされております。積極的にそれらの情報を獲得する能動性も必要になってきます。

この「目標」は頂、頂上を目指すには、多様なアプローチやルート・経路が存在していますので、各チームの独自性を発揮していただきたいと思っております。

しかし、JBA からは年代別ガイドラインが示されており、各種機関からも注意啓発等を含む指針が示されています。例えば、具体例として熱中症対策に関しては、指数 31 で運動にかかわる教育活動全般の中止となっております。ここで独自性だとかオリジナリティーは主張できません。それらを準拠しながら、競技者のアセスメントをしっかりと、把握し、適切な指導を心がけていただきたいと思っております。

残念ながら、その指数 31 を把握する機材が準備されていなかったり、情報を見ていない・聞いていない・知らない状況下であったりして、痛ましい案件が発生してしまっています。また、多少室温が高くても「指導」という名で練習を正当化されやすく、子どもたち・保護者も指導者の言うことだからと受け入れてしまう傾向は否定できません。

最後に、札幌地区 U12 部会では、日々の練習と交流・リーグ戦等でプレータイムを増やし成長を促し、その結果として試合・大会等の勝敗を通じこれまでの成果や進歩・成長を実感できる場を創出することを謳っております。

ミニバス連盟から U12 部会となりましたが、その間も私は、札幌地区の「年報」の巻頭言で、ずうっと「勝利至上主義」からのマインドリセットについてお伝えしてきております。

本日は、今年度においては「育成マインド」をキーワードに部会内の最重要課題として共有する会とすると聞いております。健全なバスケット環境を整えてい頂くようお願いして、挨拶といたします。